

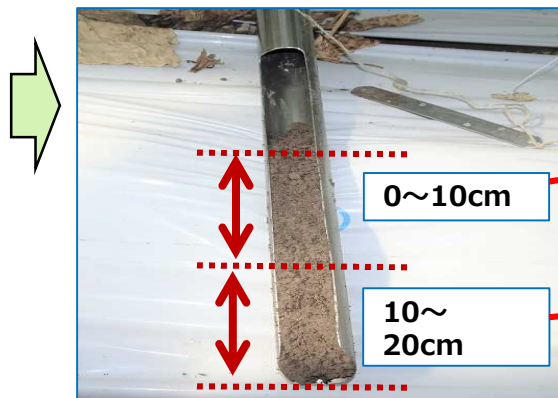
1 かん水管理の基礎知識

(4) 土に触れて観て確かめる

- 最終かん水から **2～3時間後**を目安に土の湿りを確認。
 - 晴天や曇雨天が続く場合など、**判断に迷ったら確認**。
- 晴天日が続く時期（10～11月、2～3月）は底土が乾きやすいので注意。**



- ・ かん水チューブの孔と孔の間に採土器を差し込み、1回転させ採土する。

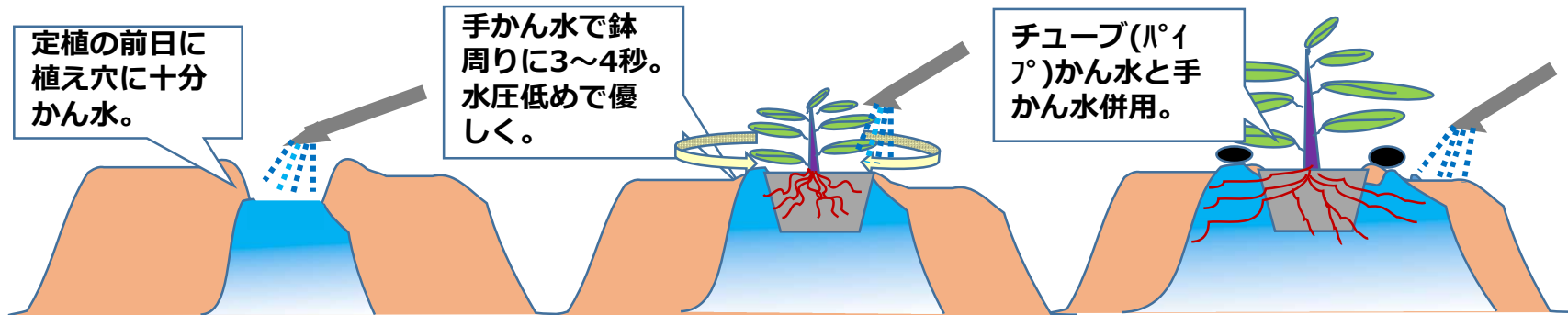


- ・ 深さごとに、湿りを確認、水が滲む状態は明らかに加湿。



2 かん水管理の実際（定植～活着）

（１）かん水管理の基本



定植前に



定植後ただちに

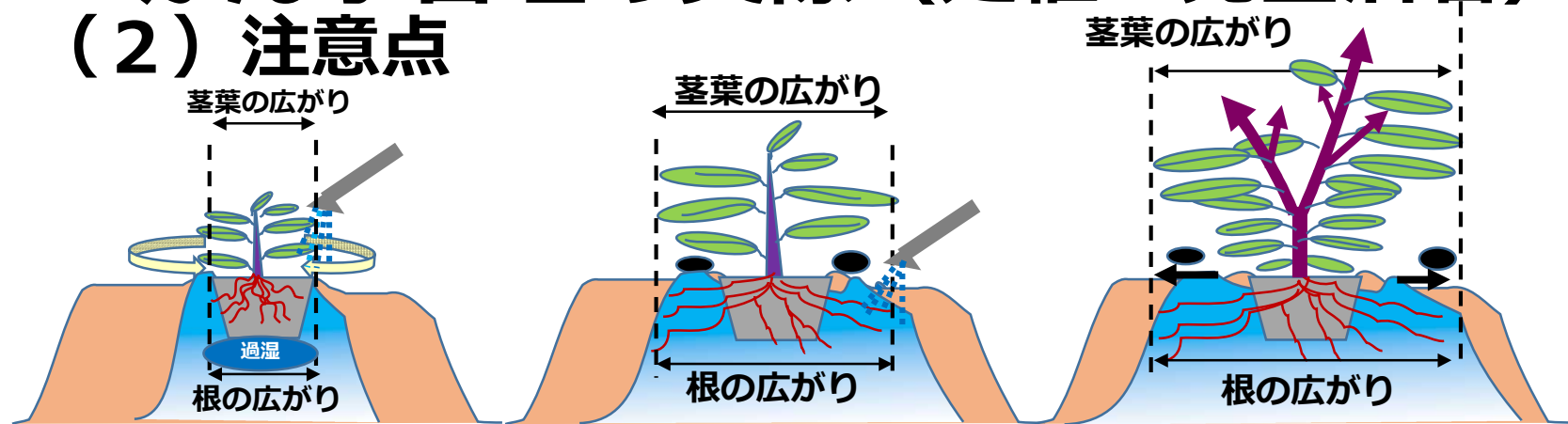


活着（定植後7～10日）



2 かん水管理の実際（定植～完全活着）

（2）注意点



定植～5日後

- ・根鉢が乾燥、周りの土壌は過湿になりやすい。
- ・特に根鉢の底面が、過湿になりやすく根傷みの要因となる。

活着期（定植後7日～）

- ・根鉢と周りの土の乾湿差が小さくなる。
- ・芯の紫色が濃くなり、葉も大きくなり始める。

完全活着（定植後14～21日）

- ・根の吸水力が高まり、根鉢が乾いても萎れにくくなる。
- ・芯の色が濃さを増し、葉は更に大きく主枝の茎径は太くなり始める。

○かん水は早朝、気温の低い時間に行う。

- 根鉢や鉢周りに湿りがある場合は、かん水を控える。
- 根鉢や鉢周りに湿りがあっても強く萎れる場合は、土の表面が湿る程度に散水する。

○吸水量が多くなるため、かん水不に注意する。